



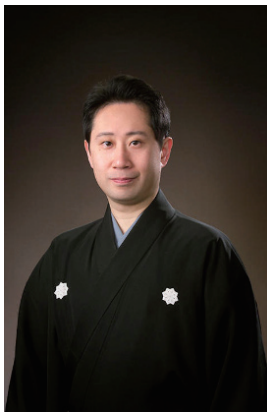
展覧会概要

能楽は日本の伝統芸能のひとつであり、600年の歴史を刻んだ舞台芸術です。200曲以上あると言われる能の演目を分類する言葉に「神・男・女・狂・鬼」があります。尾張徳川家に伝来した能面・能装束や小道具などを通じて、演目ごとの取り合わせを紹介します。舞台上に華開いた能楽の世界をお楽しみください。

展覧会基本情報

- ◆展覧会名 企画展 能の世界—神・男・女・狂・鬼—
- ◆会場 名古屋市蓬左文庫展示室
- ◆会期 2023年4月15日(土)～5月28日(日) ※会期中展示替あり
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆休館日 月曜日 ※ゴールデンウィーク期間<5月2日(火)～7日(日)>は休まず開館
- ◆観覧料 一般1,600円 高・大生800円 小・中生500円
※20名様以上の団体は一般1,400円 高大生700円 小中生400円
※毎週土曜日は高校生以下無料
- ◆主催 徳川美術館・名古屋市蓬左文庫
- ◆協力 名古屋市交通局

展覧会関連企画



能楽特別講座「能へのいざない」

講師：片山九郎右衛門氏(観世流能楽師)

日時：2023年4月30日(日) 午前1時30分～午後3時(開場：午後1時)

定員：70名(事前申込制・先着順)

参加費：2,500円(入館料別途)

【応募方法】

E-mail、FAX、往復はがきのいずれかの方法で、①～⑦を明記の上、下記へお申し込みください。

①講座名 ②氏名 ③住所 ④電話番号 ⑤FAX番号(FAXでお申し込みの方) ⑥参加人数

⑦会員種別(賛助会・友の会・大学メンバーシップ)

<徳川美術館 講座係>

〒461-0023 名古屋市東区徳川町1017

E-mail: taiken@tokugawa.or.jp FAX: 052-932-6261

プレス内覧会

2023年4月14日(金) 午後1時～2時30分 (12時45分より開場)

会場：徳川美術館 本館展示室

※同時期開催の特別展「大蒔絵展—漆と金の千年物語」会場より解説をスタートし、その後会場を蓬左文庫展示室へと移して企画展「能の世界」の解説を実施いたします。

内容：展覧会担当学芸員による概要解説の後、自由取材

展示構成

《翁》能にして能にあらず

正式な能の上演は早朝から夕刻までかかり、神・男・女・狂・鬼の順で曲目が組まれる。これを五番立てといい、それとは別に、冒頭で演じられる特別な曲目が「翁」である。「翁」は老人の姿の神が舞台上で舞い、天下泰平・国土安穩を祈る神聖で儀式的な曲目である。能のなかでは例外的に物語の筋が無く、演者は舞台上で面をつけて神に変身し、めでたい言葉や呪文めいた歌詞をつらね、袖をひるがえし足踏みを行ったあと、面を外して舞台を退く。翁の舞の前には露払い役の千歳が躍動感ある舞を見せ、翁が退出すると狂言方によって三番叟の舞が行われる。翁は別格の神聖な曲として、祝賀行事や能楽堂の舞台披露、正月に舞われる大切な曲とされている。

《神》協能 神々の世界

五番立ての演能のうち、最初に演じられる曲目は神が主人公である。「翁」に続いて上演されるため「協能」とも呼ぶ。日本各地の神が主人公として登場し、神社の縁起や神威を説き、舞を舞って国土の繁栄や平和な世を祝福する。高砂と住吉の松の化身である老夫婦が登場する「高砂」のほか、養老の滝の霊水と山の神が登場する「養老」、琵琶湖に浮かぶ竹生島を舞台に、神々が登場して祝福をもたらす「竹生島」が代表的な協能である。

《男》修羅能 武将の悲劇

修羅能は五番立ての演能のうち二番目に演じられることから「二番目物」とも称される。修羅とは戦いで殺生を行なった者が死後おもむく世界のこと、僧侶の前に源氏や平氏などの武将の霊が登場し、戦いの様子を再現し、自分の最期や死後の苦しみを語り、僧侶に救済を求めるのを主題とする。源頼政の最期の様子を示す「頼政」や、平敦盛を討った熊谷直実の前に敦盛の亡霊が姿を現す「敦盛」など、悲劇が主題の曲目（負修羅）が代表的な修羅能である。一方、源義経の活躍を示す「屋島」、梶原景季が主人公の「籠」のような勝者が主人公の曲目は「勝修羅」と呼び、新将軍の就任祝い（將軍宣下）や家督相続を祝って行われる幕府や大名の祝賀能の際に上演された。

《女》鬘能 王朝の女性たち

『伊勢物語』や『源氏物語』などの古典文学に登場する女性や男性、天女や草木の精などが登場する能で、女性の主人公が多いことから「鬘能」とも呼ばれる。曲の後半に主人公が在りし日の姿で舞台上に登場し、歌舞を見せてクライマックスを迎え、主人公は再び姿を消して幕が閉じる。五番立ての能の三番目に演じられることから「三番目物」とも呼ばれる。女性の霊が昔の恋を語る「松風」や「井筒」、杜若の精が和歌や恋について語り舞う「杜若」、漁師から羽衣を取り返した天女の歌舞が中心の「羽衣」などが代表的な曲目である。

《狂》雑能 さまざまな物語

五番立ての能のうち、四番目に演じられる曲目を「四番目物」と呼ぶ。別れた愛人や我が子を求めてさまよう狂乱物や、現世への断ちがたい妄執をあらわす執心物、仇討ちの物語や中国を舞台とした作品など、さまざま題材が選ばれていることから「雑能」とも呼ばれる。逃げた男を隠れた鐘ごと焼き殺した女の怨念の物語「道成寺」、子供と死に別れた母を描く「隅田川」、光源氏の正妻の葵上に取り憑いた源氏の愛人・六条御息所を描く「葵上」、孤島に独り残された男の苦悩を描く「俊寛」などが代表的な曲目である。

《鬼》切能 超自然的力を舞台に

五番立ての最後に上演される曲目は「切能」とも呼ばれている。鬼や天狗・妖精・龍神など、超自然的な存在が主人公の能である。主人公がこの世に姿を現した後再び別世界へ帰ってゆくのが特徴で、とりわけ後半の歌舞が豪快かつ賑やか、あるいは愉快的な曲が多い。

獅子が登場して舞を見せる「石橋」、狐の妖怪の魂が取り憑いた巨石を仏力で鎮める「殺生石」、酒を好む妖怪が登場する「狸々」、源融が舞い美しい風景を懐かしむ「融」、源義経の前に平家の武将の怨霊が姿を現す「船弁慶」などが代表的な曲目である。

広報画像ならびに視聴者・読者プレゼント提供



【画像1】
紅・白段金霞扇に枝垂桜文唐織
江戸時代 19世紀
徳川美術館蔵



【画像2】
能面 小面 伝是閑吉満作
桃山 - 江戸時代 16-17世紀
徳川美術館蔵



【画像3】
能面 般若 焼印「天下一是閑」
朱漆花押
是閑吉満作
桃山 - 江戸時代 16-17世紀
徳川美術館蔵



【画像4】
萌黄・黄段山道に釘抜雲版文厚板唐織
江戸時代 17世紀
徳川美術館蔵
5月9日～5月28日公開

企画展「能の世界—神・男・女・狂・鬼—」を、ぜひ御社媒体にてご紹介ください。
画像を1点以上使用してご紹介いただいた場合、視聴者・読者プレゼントとして本展覧会
の御招待チケット（非売品）を、1媒体5組10名様にご提供いたします。



<下記内容をメールまたは電話、ファックスにてお知らせください 利用期間：～2023年5月28日（日）まで>

希望画像番号

使用媒体

放送日・発売日

プレゼント提供 希望する 希望しない

貴社名

ご担当者様

データ送付先アドレス

ご連絡先電話番号

【ご利用にあたっての注意事項】

- ・画像のご利用は本展覧会の紹介用途のみに限ります。
- ・部分アップのトリミングは可能ですが、色変更等の加工はご遠慮ください。
- ・二次利用不可です。
- ・画像には最低限「タイトル」と「所蔵」のクレジットを明記してください。
- ・内容確認のための校正原稿をお送りください。
- ・ご掲載誌、DVD等を1部「徳川美術館 管理部 広報宛」でお送りください。



徳川美術館

The Tokugawa Art Museum

〒461-0023 名古屋市東区徳川町 1017

TEL：052-935-6262（10時～17時受付）

052-935-8222（営業時間外受付）

FAX：052-935-6261

担当：吉川 yuki@tokugawa.or.jp

竹内 d.takeuchi@tokugawa.or.jp

